



都市医師会 だより

札幌市医師会 市民対話集会2014

札幌市医師会理事 松村 茂樹
政策部長

平成26年8月30日（土）に 札幌市医師会館において、札幌市医師会主催の市民対話集会を開催いたしました。今回で11回目となる集会のテーマは、「混合診療が導入されたら 私たちはどうなるの？」でした。札幌市医師会の松家治道会長の挨拶の後、道東大空町の出身で、テレビなどでおなじみの講談師神田山陽さんの講演を行い、その後、吉野圭子さんの司会で、神田山陽さんと私と当会の荒木啓伸理事とで、パネルディスカッションを行いました。今年の集会は、過去最高の参加人数である290名という市民の皆さんと日本の医療、混合診療について考える有意義な集会となりました。

第一部は神田山陽さんの講演でした。

山陽さんは、寄席の伝統的な演芸について、落語は「笑い」の芸、浪曲は「泣き」の芸、講談は「怒り」の芸であることをお話しされ、続いて講談の一節を聴かせていただきましたが、マイクを使わず伝わってくる迫力のある声には圧倒されました。また講談の歴史は古く、元禄時代から、忠臣蔵の切腹など庶民が問題意識を持つ世の中のさまざまな問題を取り上げ、単なる芸能ではなく、事件が起こった時に、あたかも現在のジャーナリストのように、講談師が講釈をすることがなされていたということを紹介されました。

続いて山陽さんは、3年前に国民幸福度が高いと言われているブータンを旅したことを語られました。ブータンでは、学費が無料で、皆、平等に教育が受けられ、医療費も無料であるために、病院には会計がなく、日本のような高度な先進医療は受けられないが、平等に医療が受けられる。平均寿命は68歳であるが、長生きすることがもしも幸せだとしたら、日本の平均寿命は世界最高で84歳であるので、日本のほうが幸福だが、本当にそうなのだろうか？



パネルディスカッション

と疑問も語られました。また、ブータンではどうして病気になるのかについては、「不安を抱えている心の隙間に悪霊がやってきて病気になる」と考えられていて、悪霊を寄せ付けないためには、「欲をかかない、憎まない、嫉妬しない」が重要であること、つまり欲をかいて自分だけが良ければいいとは考えず、何事にも寛容で、とにかく憎まない、怒らない、そして人と自分を比べないことで嫉妬をしないと病気になるという考えられているということでした。そして東日本大震災の津波の際には、ブータン国王は、日本に7,000万円の寄付をしてくれたことや、日本人の農業技術者である西岡さんはブータンで農業指導を熱心に行ったことや、日本がブータンの橋の建設に協力してきた両国の良好な関係が築かれていることを紹介してくれました。



札幌市医師会
松家 治道 会長



札幌市医師会
松村 茂樹 政策部長



札幌市医師会
荒木 啓伸 理事



神田 山陽 氏



司会
吉野 圭子 氏

山陽さんは、混合診療について、転倒して前歯が抜けて、差し歯にした歯科での治療で、保険診療だと3万円で済むところを、保険外診療で43万円を2回支払ったことがあり、お金のあるなしで受けられる治療に差ができる自由診療を経験したことから、どうして今、保険外診療の幅を広げようとしているのかについての疑問を述べられました。そして「医は仁術」と言われているが、仁とは、思いやりのことであって、思いやりのないような医療であってはならないし、今後の日本の医療、幸福がお金さえ払えば手に入るのであれば、ブータンの基準だけでなく、世界の基準からも日本は遅れていくのであって、決して幸福とは、金をかけて長生きしていくことで手に入るものではないことを語られました。

第二部は、神田山陽さん、荒木啓伸理事、私の三人でパネルディスカッション形式で、「混合診療を導入したら私たちはどうなるの？」を行いました。初めに荒木理事から、日本の医療制度の特徴である、国民皆保険制度、高額医療制度、フリーアクセス、現物給付方式について説明がありました。山陽さんは、沖縄で蛇に咬まれて急患として保険証を持参せず病院を受診したときに、後日郵送した保険証コピーで保険診療が受けられた経験なども紹介されました。また、日本の医療は平均寿命世界一、健康寿命世界一、乳児死亡率も世界最低レベルであり、世界トップレベルであること、さらに混合診療につい

てディスカッションが行われました。現在、混合診療は原則禁止ですが、評価療養と選定療養という保険外併用療養費制度があることについて説明がされ、さらに、なぜ混合診療が禁止されているのか、混合診療賛成派の意見、反対派の意見が紹介されました。また2014年6月に安倍首相が成長戦略の一環として、混合診療を拡大する新たな制度として創設を表明した「患者申出療養」について、詳しく市民の皆さんに説明がなされました。患者申出療養は、困難な病気と闘う患者の申出に基づいた療養制度で、安全性・有効性を確認しつつ審査期間を抜本的に短縮したもので、より身近な医療機関でも先進医療を受けられるよう柔軟に対応されるというものです。そして、保険外併用療養の拡大についての医師会の考え方としては、①安全性・有効性が確保されていること ②将来の保険収載を前提としていることが重要であることを市民の皆さんにお示しし、札幌市医師会は、国民皆保険制度の崩壊につながる混合診療の全面解禁に反対していることを市民の皆さんに理解していただいた集会になったと思われま

す。最後に、今年ヒットした、アナ雪の主題歌の替え歌として、「いまの～ままの～、国民皆保険 いいのよ～♪、いまの～ままじゃない～、混合診療 いやだ～♪」でまとめさせていただき、集会を終了しました。

平成26年秋の叙勲・褒章受章者（北海道医師会員）

先般、平成26年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々も叙勲の荣誉に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。
受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇旭日双光章

杉本 良一 元 赤平市医師会会長
保健衛生功劳

◇瑞宝中綬章

森 道夫 札幌医科大学名誉教授
教育研究功劳

◇瑞宝双光章

稲見 研二 元 茨戸病院院長
保健衛生功劳

◇瑞宝双光章

大鹿 榮達 現 学校医
学校保健功劳

◇瑞宝双光章

多米 豊 現 学校医
学校保健功劳